Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-05

鳥取大学附属特別支援学校の「自分づくりの段階表」の意味 ： 田中昌人の「階層ー段階理論」を手がかりに(PPT資料)

中村，隆一

(Citation)
日本特殊教育学会第57回大会 自主シンポジウム10-4「自分づくりの段階表」の意義と可能性 ：教育実践と発達理論をつなぐ試みとして

(Issue Date)
2019-09-23

(Resource Type)
conference object

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006358

鳥取大学附属特別支援学校の「自分づくりの段階表」の意味：田中昌人の「階層ー段階理論」を手がかりに

中村隆一
（立命館大学大学院人間科学研究科）

「精神薄弱」概念の再定義：「発達と教育」という文脈の中で

- 近代教授学の契機
- 注入主義・暗記主義の「教授」の克服という問題意識から「発達と教育」という分析視点をせっていすることによって教授場面をより全体的に再構成しようとする
- EducationとDevelopment

はじめに

- 鳥取大学附属特別支援学校での「自分づくり」の取り組みの意味を検討する場に，発達研究・発達臨床という立場で参加する
- 発達研究・発達臨床という場合，私の場には田中昌人の「可逆操作の高次化における階層ー段階理論」，さらにそれに基づいた発達の把握（発達診断など）という面からになる
- いわば教育を発達論を軸にして論じるのであるが，発達論と一概にのべても多様であり，だから議論の前提に「なぜ階層ー段階理論か」という議論が必要になる

そうした取り組みの必要性として

- 教育妥当性を否定してきた「知能」概念に発達を対置する
- 教育課程の編制の指標になんらかの発達順序性が考慮される必要性がある
- 人格特性からの相対化をし「精神薄弱」という行政的政策的概念によって拡大再生産される偏見や権利侵害を減らそうとする要請

「精神薄弱」概念の中から

- 「精神薄弱」概念は，ヨーロッパの救貧院という生活扶助の現物支給の場で実践的に顕在化してきた．もちろん医学的あるいは心理学的にも議論されてきたがその出自は政策的行政的概念である
- そうした文脈では「精神薄弱feeble mind」は，able bodyと対句で使用されていたことが重要な意味を持つ．そもそも貧困は怠惰という宗教的な罪の結果であり，その上able bodyをもちながら意志薄弱のため，支援にもかかわらず自立（救貧施策からの離脱）が困難な人間集団として「精神薄弱」に注目をしたものである
  - 「精神薄弱」とされた人たちが20世紀においても非人道的な扱いの中にあった歴史はここでは触れない

2　発達論の展開

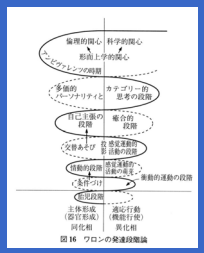
- 知能研究のように，先天性・恒常性を公理化しない
- 変化を変化と捉えてその内在的な法則性を探究しようとする
- 「内在的な法則性」を掲げることであらたな理論上の課題も……
  - 環境の影響，さらには意図的な働きかけをその法則的認識に組み込めるか？
  - 順序性をどう理論的に再構成できるか

ピアジェの構成主義，田中の自己運動性

- この2人は理論化にあたっての基本概念の設定というレベルだが探求すべき独自の法則性を基本概念に組み込む
  - ピアジェ　シェマ　同化と調整　あるシェマが次のシェマを生みだすという構成主義
  - 田中　可逆操作　二重の生産機制　自己運動性

ただこうした田中の方向が唯一というわけではない

- 例えばワロンなどの発達論がある
- 通常の発達段階（ワロンなどはおそらくそれを並行主義と）

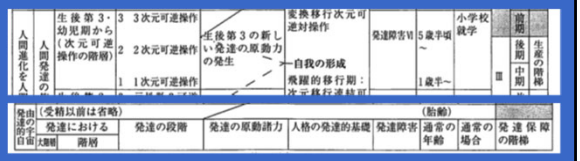


田中の場合には

- 方法論的にも一層先鋭化させて，発達の質的転換期を環境など誘導因の作用では説明できない時期に注目をして抽出し，それをもとに生成過程の階層－段階理論を「構想した
- これは，人間発達の普遍を取り出すことができるが反面発達にとっての教育の意味を位置づけられない
  - 普遍で一定の持続性があるので説明変数としては設定しやすい
- 可逆操作・個人の系＝人格の発達的基礎

中村的拡張

- 人格という場合，
  - 社会的な関係は重層的である（家庭と学校，地域など）
  - 感情（＝情動）は文字通り流動的
  - ここに注目することで教授場面の検討が可能に
- そうした状況依存的な姿をもって一定期間継続する教育計画・教育課程の妥当性を論じることができるか？



3 鳥取大学附属特別支援学校の「自分づくりの段階表」について

- 子ども理解の2つの位相
- 普遍として：発達の順序性，発達段階など
- いまここにあるもの：人格

実践の出発点としての「自分づくりの段階表」

- いくつかの弊害
  - 「PDCAサイクル」の弊害
  - 教授理論の認知心理学化の弊害
- 鳥大附属の「自分づくり」は

- 子どもの権利条約　障害者の権利条約など国際的な動向との関係でも興味深い
- 「生活を楽しむ子」は子どもの権利条約第23条　障害のある子どもの権利ともかかわって
- Article 23
- 1. States Parties recognize that a mentally or physically disabled child should enjoy a full and decent life, in conditions which ensure dignity, promote self-reliance and facilitate the child's active participation in the community.

実践の媒介性を担保する「自己運動サイクル」

- 澤田報告が成立しうるのもこうした指導内容と目標との媒介性を可能にする理論的な基礎があるから
- ただ，そのためには充分な説明責任が必要となるだろう

以上のような意味を鳥大附属の「自分づくり」に認めた上で……

- 何が形成されているのか，は明確になっているだろうか？
- 一歩学級・学校を出たときにもそうした教育（的配慮）が継続するためには，ひとつひとつの取り組み・変化の普遍化・理論化が必要ではないか
- それを欠いたところでは社会への適応が一面的に強調されないか